

特集① Ⅱ 建国記念の日をことばく

今月の谷口雅春先生のお言葉

# 日本建国の理想は 全世界を調和させるといふこと



2月11日は、わが国の建国記念の日です。  
日本が建国された意義について学びましょう。

日本国家は、

人民の集合体である組合国家ではない

先般NHKで「愛国心に就いて」という題で札幌の大学の学生ともう一つ二つどこやらの学生とを集めて、その討論だか問答だかをしている録音放送がありました

が、その中で「愛国——とは国を愛するということだけれども、今の日本の国が愛すべき国であるかどうかということが問題である。愛すべき値打ねうちの無い国なら愛しなくてもいいのではないか」というような意味のことを発言した大学生が居たので、驚いたのであります。大体、国というものの概念が、(中略)人民が相互に契約をして、一つに集って人民のためになる組合くみあひを拵こしらえようではないかというような具合で組合として出来上ったものが国家だというようなものの方を戦後の日本青年はしているようであります。人民主権と云うのがそれです。これは日本の建国の由来とは異なるのであります。占領後の連合軍による日本弱体化の政策によって、神武の建国の歴史は事実ではないとして、神武天皇は存在したのではないと云うことにしてしまわれたのです。そして人民が互に相談して国と云う集合体をつくったので、主権はそれをつくった人民にあり、その人民の都合の良い組合が国である。そういうようにして出来上ったのが、国家だと考えられている。外

国の国家はState(状態)と云う英語で言いあらわされているように一つの集合状態に過ぎないのでありますが、日本の建国の由来から考えると日本国家はState(状態)ではなく、「大和たいわ」なる理念によって統合されたる「理念表現」の国家なのであります。

(新版『真理』第7巻265〜266頁)

### 国家には「理念」がある

国家というものも唯物論的に言えば、小さい個人個人という細胞が契約をして、そしてこういう国こくを拵こしらえておけば個人に都合が良いというので拵こしらえたのであれば、これは人民主権だと言えるでしょう。人民主権と云うことは人体にたとえてみれば細胞主権ということに当ります。併しかし国家が有機的生命体である以上、一つ一つの細胞が主権をもっていると云いうことは不合理なのであります。人体は人体として、ある目的をもってつくられたように、国家も、国そのものに目的とする「理念」があっ

て、その理念目的の姿に住民が結びついて国家が形成されたのであります。少くとも日本民族は、国というものを一つの生きものとして、又体またと同じように、一つの理想を有つも一つの「有機的生命体」であるとして考えたのであります。それが日本の民族精神であります。だから日本人の民族精神の表現である『古事記』には、人間の生れるまでに先ず「国」があるのであります。

(新版『真理』第7巻269～270頁)

日本国家の本質は、

天皇を中心とした国である

日本国家と云う家も色々な部分あつまが集って出来ていますが、そこに住んでいる何々人種が日本国家ですかと云っても、それは日本国家ではありません。此この机が日本国家ですかと云っても、机が日本国家ではありません。この土が日本国家ですかと云っても土が日本国家ではありません。それらすべては日本国家を形造かたちづくる材料であつ

て、「家」にすれば、材料や瓦や壁やセメントに当るものなのです。神話的に云いますならば、日本国家は、天照あまてらす大御神おほみかみの理念おもひごころの中に先ず造られて、それが「千五百秋ちいほあきの瑞穂みずほの国は世々よよわが子孫うみのこの王きまたるべき地くたなり」と云う天孫降臨てんそんこうりんの神勅しんちよくとなつてあらわれております。(中略)

だから日本国家の本質及び設計は、天皇国家の姿をとるべく日本民族全体の心の中に既にあつたのであります。それが世の中の進むに従い、形の世界に徐々に出来上つて来たのであります。そして神武天皇じんむが大和やまとに都を奠はめ給たまうたのは、天皇中心の国と云う日本民族全体の精神が具体化した第一期工事の完成だと云うことになります。

(新版『真理』第1巻64～65頁)

全世界の人類が

兄弟としてまとまるという理想

神武天皇じんむの建国も神話であつて、神武天皇は実在の人物でなかつたいと云う人が、戦後に日本の歴史家の中にも

出て来たのであります。併し神武天皇が實在であろうがなかるうが、その神話を古代の日本民族がつくつたと云うこと其のことが大切であつて、日本の国を建設した古代民族の心の中にある「建国の理想」が、人格的に表現されて「神武天皇」となつたのであります。そしてその神武天皇が、建国の理想として「八紘を蔽いて宇と為さん」と仰せられた。これを吾々は一口に「八紘一宇」の建国の理想と申しておりますが、(中略)天地間に外国は無い、何処も彼処も一家族で兄弟であると云う理想を表現せられたのであります。このように、日本国はその建国のはじめから、全世界の人類は互に兄弟であるとう民主主義理想のリーダーとして神武天皇が描かれているところに日本民族の理想を見るべきであります。

(新版『真理』第1巻65～66頁)

すべてを一つに調和するのが日本人の使命

日本民族は総てバラバラに分かれているのを一つに綜

合するところの天分を持つていたのでありまして、日本の国の名前を「大和」と名づけられたということも、「や」というのは「弥々」と云う字が当てはまるので、いよいよ多いという意味であります。「まと」というのは「纏める」という意味であります。弓で射る「的」を「まと」というのも、同じことでありまして、中心に「纏まって」いる姿を現わしています。いろいろに分かれていても、その悉くが一つに纏まるべきものであつて、決してバラバラのものは存在しない、宇宙は一つである、世界は一つであるといふところのその人生観が、古代の日本民族を通して現在の日本民族に至るまでずっと貫き通しているところの民族的信念とでもいふべきものなのであります。(中略)日本民族は「大和」と国を号してすべての国々は皆家族であるとして、一切のものを一つに調和せしめる使命を持つていたのであります。

(新版『真理』第3巻241～244頁)